

海から始まる京への道

丹後と京の都を結んだ海と陸の道



海から始まる京への道

丹後と京の都を結んだ海と陸の道

日本の心のふるさと——京都。

千年超の王城の地・平安京に花開いた雅の文化と

それを支えてきた陸路・海路を通じた交流は、

伝統を尊びつつ先取気鋭の気概に満ちた

独自の文化を築き上げました。

なかでも海路の役割は大きく、

山陰から近畿にかけての日本海側では古来、

日本海を北上する対馬海流や季節風を利用して、

夕日ヶ浦
ゆづしがうら



新井の棚田
にい たなだ



伊根浦舟屋群（伊根の舟屋）
いねうらふなやぐん いね ふなや



天橋立
あまのはしだて



舞鶴大浦半島 漁村風景
まいづるおおうらはんどう

日本海沿岸の地域間相互の交流や朝鮮半島との往来が頻繁に行われていました。

そうした交流の中心であったと考えられる地域のひとつが、丹後です。

かつて丹後は、日本海に面した国内外諸国との

交流で繁栄した「海の王国」で、

丹後と、内陸にあった平城京や平安京へのゲートウェイ、

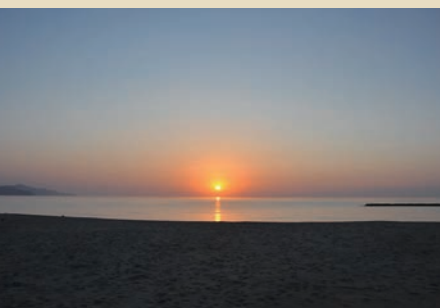
すなわち、海から内陸に向けての交流拠点でした。

「都で繰り広げられる歴史ドラマの

陰となり日向ひなたとなり影響を及ぼしてきた

丹後・丹波に秘められたロマンに想いを馳せながら、

丹後と京の都を結んだ、海と陸の道をたどってみましょう。



夕日ヶ浦 夕景
ゆひがうら



立岩
たていわ



丹後松島
たんごまつしま



今も残る丹後古代の風景 大海原を見渡す美しい海岸線によみがえる古代ロマン

丹後半島が位置する京都府北部には大型古墳群が集中しており、近年の発掘調査などからも

古代に独自の勢力が存在していたと推測されています。

最盛期が四世紀中・末期頃から五世紀であることから

古墳時代、大和朝廷などと並び独立性をもつ勢力「丹後王国」が

丹後を中心に存在したとする学説が注目されています。

現在もこの地を訪れば、

奇岩・巨岩が点在する美しいリアス式海岸が続く海岸線と

その向こうに、大きく弧を描いて大海原が広がり、

古代丹後の人々が目にしていたであろう光景に出逢い

「海の王国」「海の京都」をしのぶ歴史ロマンが満喫できます。

あまのはしだて ① 天橋立

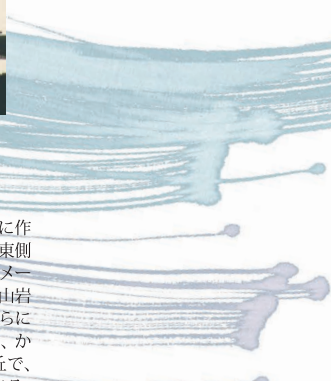
阿蘇海と宮津湾を隔てる全長約3.6kmの砂州で、大小約8000本の松が茂る。天に架かる橋のように見えることから『天橋立』と呼ばれ、古代から名勝として知られ、日本三景の一つにあげられる。

- 連絡先／0772-22-8030（天橋立観光協会）
- アクセス／KTR 宮津線「天橋立」駅下車徒歩5分

たんごまつしま
② 丹後松島

京丹後市丹後町此代(このしろ)から東に向かって島々が連なっている様が、日本三景の松島に似ていることから名付けられた。リアス式の海岸の風景が経ヶ岬まで続く美しいシルエットが印象的な『山陰海岸ジオパーク』を代表する眺めで京都自然 200 選にも選ばれている。海水浴場としても人気が高い。

- 連絡先 / 0772-75-0437 (京丹後市観光協会丹後町支部)
- アクセス / KTR 宮津線「峰山」駅から丹後海陸交通バスで約 60 分「此代」下車 徒歩 5 分



こふん うす
③ 古墳と海

大成古墳群は古墳時代後期(6世紀末~7世紀初め)に作られた 13 基の円墳で、竹野川と海とが接する海岸の東側の切り立った崖の上に築かれている。また、高さ 20 メートル、周囲 1 キロメートルの日本でも数少ない柱状火山岩である立岩もそびえる。立岩の頂上、大成古墳群、さらに東方に分布する海から十数メートルの高さの平坦面は、かつて海面だったところが隆起して高くなった海岸段丘で、古墳などが多く見つかり、古代の営みを知ることができる。

- 連絡先 / 0772-75-0437 (京丹後市観光協会丹後町支部)
- アクセス / KTR 宮津線「峰山」駅下車 丹後海陸交通バスで約 50 分



きょうがみさき
⑤ 経ヶ岬

近畿地方最北端にある岬。柱状の割れ目が連なる様子が経巻を立てたように見えることからこの名前が付いたともいわれている。岬の最高地点は 201m で、中腹の 140 メートルの位置には経ヶ岬灯台があり、「京都百景」にも選ばれた景勝地。

- 連絡先 / 0772-75-0437 (京丹後市観光協会丹後町支部)
- アクセス / KTR 宮津線「峰山」駅から丹後海陸交通バスで約 80 分「経ヶ岬」下車 徒歩 15 分



なり あいじ
⑥ 成相寺

西国 28 番の札所。昔、修行中の僧が餓死しそうになった時、本尊の観音様がその身代わりとなって助けたという故事から、願い事が必ずかなう(成り相う)お寺と呼ばれるようになった。雪舟の「天橋立図」にも描かれ、本堂、鎮守堂、鐘楼は府指定文化財。

- 連絡先 / 0772-27-0018 (成相寺)
- アクセス / KTR 宮津線「天橋立」駅から汽船で 12 分[一の宮]下船 徒歩 5 分、ケーブルカーに乗り換え 5 分[傘松]まで、さらに登山バスに乗り換え 7 分「成相寺」駅下車すぐ



もと い せ ないくうこうたいじんじゅ
⑦ 元伊勢内宮皇大神社

福知山市大江町にある天照大神を祀った神社。全国でも珍しい黒木の鳥居を持ち、三重県の伊勢神宮より前に天照大神が遷座したことから、「元伊勢」と呼ばれている。境内の周囲の森林と共に京都の自然 200 選に指定されている。

- 連絡先 / 0773-56-1011 (元伊勢内宮皇大神社)
- アクセス / KTR 宮福線「大江山口内宮」駅下車 徒歩 10 分



もと い せ このじんじゅ
⑥ 元伊勢籠神社

伊勢神宮に奉られる天照大神、豊受大神がこの地から伊勢にうつられたという故事から「元伊勢」と呼ばれる。平安初期編纂の国宝の神主家系図を所蔵する、古代からの由緒を誇る神社。

- 連絡先 / 0772-27-0006 (元伊勢籠神社)
- アクセス / KTR 宮津線「天橋立」駅から汽船で 12 分[一の宮]下船 徒歩 2 分



味 寒ブリ・ぐじ

日本3大ブリ漁場といわれる伊根湾をはじめ、丹後の各地でとれる冬場の寒ブリは、身がしまり脂がのって極上の味です。「ブリしゃぶ」でいただく、脂が適度にぬけて口当たりがさっぱりし、後から天然の甘みと脂のうまみが口いっぱいに広がります。また、秋には「丹後ぐじ」とよばれる甘鯛が旬を迎えます。伊根沖、本庄沖では海老を餌に釣る伝統漁法「ポッコ釣り」が今でも行われています。



北前船が運んだ

文化と食の源

海と内陸の交易を通じて、都の繁栄をもたらした水運

江戸時代から明治時代にかけて、

北海道や東北と、京都・大坂など畿内地域とを結んだのが北前船きたまえぶねです。

丹後にもいくつかの寄港地があり、

今も丹後の港やその周辺には、廻船業を営んだ商家宅や、港の街並み、

お酒や醤油の醸造所などが残り、往時の繁盛ぶりがしのべられます。

北前船は昆布、にしん鯨、米といった生活物資ばかりでなく、

人や文化も合わせて運び、丹後を窓口として、内陸の丹波や都へと運ばれました。

それまでは貴族や武家社会などの重要交易品・高級品とされてきた昆布も

北前船によって安定して供給されるようになり、京都独自の料理文化を発展させました。

こうした交易・交流は、北前船の寄港地である丹後の港と都とを結び

地域の交通手段を担った

由良川の舟運によって支えられていました。

北前船と由良川の舟運によって、

都は広く日本各地と結ばれていたのです。

水運の時代から街道整備、鉄道の発展へと、

時代の移り変わりとともに

運搬や交通のスタイルを変えながら、

由良川流域は、丹後と丹波とを結ぶ水陸交通の要衝として

いつの時代も、京都の交流・交易を支えています。



1 奉納和船

北前船としても活躍した丹後の廻船模型。航海安全を祈願し、地元の神社に奉納された。北前船は蝦夷地・東北と京・大坂など畿内の物資を運んだ。実物と変わらない模型から当時の北前交易盛んなりし頃を偲ぶことができる。

- 連絡先／0772-27-0230（ふるさとミュージアム丹後）
- アクセス／KTR 宮津線「天橋立」駅または「岩滝口」駅から丹後海陸交通バスで「丹後資料館前」下車 徒歩3分

由良川



6 大雲記念館

明治 42 (1909) 年に建築。養蚕業で栄え、由良川流域の歴史を築いた「平野家」を再生したもので、京都府指定有形文化財に指定されている。由良川筋から綾部へと向かう街道の分岐点にあり、福知山市大江町の有路地区で代々舟改め場所として使われていた。明治 33 年には当時の当主が平野銀行（後に京都銀行）を設立するなど隆盛をきわめた。

- 連絡先 / 0773-57-0168 (あしぎぬ大雲の里 大雲記念館)
- アクセス / KTR 宮福線「大江」駅下車 町営バスで「大雲の里」下車すぐ



由良川を渡る北近畿タンゴ鉄道「丹後あかまつ号」

由良川

京都府の北部地域を流れる一級河川の由良川。北前船の荷物を福知山盆地まで運ぶ水運でも古くから人々の暮らしを支えてきた。北大路魯山人が賞賛したと言われる、「鮎」の川としても全国的に知られている。

- 連絡先 / 0773-75-8600 (舞鶴観光協会)



観光型車両「あかまつ」「あおまつ」の車内

北近畿タンゴ鉄道 (KTR)

京都府北部の丹後地域と兵庫県北東部の但馬地域を走る第三セクター鉄道。1982 年宮福鉄道株式会社として設立された。車窓からは日本海の美しい風景をのぞくことができる。

- 連絡先 / 0772-25-2323 (北近畿タンゴ鉄道)



2 豪商稲葉本家

初代喜兵衛の家業は廻屋（こうじや）で、後に久美浜代官所や出石藩の掛屋になると同時に北前船の交易により財を築いた。現在の屋敷の姿となったのは、8 代目市郎衛門代の寛政 6 (1794) 年である。屋敷内の松材を用いた太い梁組や、屋根の両妻側に卯建（うだつ）を上げた平入椽葺き切妻造り 2 階建ての壮大な長屋門などが作られ、商人が武士よりも実質的に権力を持つまでになっていた時代を偲びみることができる。

- 連絡先 / 0772-82-2356 (豪商稲葉本家)
- アクセス / KTR 宮津線「久美浜」駅下車 徒歩 7 分



3 旧三上家住宅

江戸時代に糸問屋や酒造業、更には廻船業などを営んでいた三上家の住宅。美しく風格ある漆喰の白壁で覆われたそのたたずまいは、栄華を誇った豪商の暮らしを今に伝えている。

- 連絡先 / 0772-22-7529 (旧三上家住宅)
- アクセス / KTR「宮津」駅下車 徒歩約 15 分



4 飯尾醸造

明治 26 年創業。酢の原料となる米は、宮津市内の棚田で栽培した無農薬のものを使用し、創業当時から変わらぬ古式「静置発酵」製法で「本物」の酢を造っている。

- 連絡先 / 0772-25-0015 (株式会社飯尾醸造)
- アクセス / KTR「宮津」駅下車 タクシーで 10 分



5 白嶺酒造

天保 3 (1832) 年に田辺藩主から酒造りの許可を得て、年貢米を使って酒造業を始めたという伝統のある酒蔵。農薬や化学肥料を減らした「エコファーマー認定者」の農家の酒米、仕込水には由良ヶ岳中腹の不動の滝から運んだ湧き清水「不動山水（ふどうさんすい）」を使うこだわりの酒造りをしている。

- 連絡先 / 0772-26-0001 (ハクレイ酒造株式会社)
- アクセス / KTR 宮津線「丹後由良」駅下車 徒歩 7 分

味 松葉ガニ

丹後の冬の味覚ズワイガニ。なかでも間人漁港でとれる「間人（たいざ）ガニ」は群を抜く味と水揚げ量の少なさから幻のカニのブランドとしても有名です。近海で漁をし、当日中に競りにかける鮮度の良さと、日本海の冷たい海水と複雑な海流に鍛えられた引き締まった肉質がおいしさの秘訣。





ぬいとり
縫取ちりめん

「丹後ちりめん」の一種。生地
の強度を保つための経糸・緯糸と
は別に、模様を表現するための
色糸を緯糸として織り込んだ生
地。金銀糸や色糸で柄を織り上
げるので、染物にはない、織物
ならではの光沢感が美しい。



西陣から

丹後ちりめんへへの道

丹後ちりめんが栄えた伝統の技

丹後では、奈良時代から絹の生産が行われており、

奈良の正倉院には丹後国竹野郡から調貢された絶が残されています。

江戸時代に入ると、京都の縮緬技術が丹後にもたらされました。

峰山の絹屋佐平治が西陣で技術を習得して持ち帰ったほか、

加悦谷の手米屋小右衛門、山本屋佐兵衛、木綿屋六右衛門らも

同様に京都から技術を導入しました。

丹後にはすでに紬技術の蓄積があったことに加え、

西陣が大火で織機を多数焼失し都における織物は品薄となったことから、

丹後の新興縮緬産地は大きく発展しました。

現在も高級絹織物として知られる「丹後ちりめん」は、

「撚り」をかけない経糸と、強い「撚り」をかけた緯糸とを交互に織り込み生地にした後、

「練り」と呼ばれる工程によって「撚り」を戻しシボ（皺）を生じさせる製法で織られ、

シボのもつ独特の柔らかさを特徴としています。

「丹後ちりめん」には技法や特徴などから多くの種類があり、

西陣の技術を導入・伝承するのみではなく、創意工夫を加え発展させる風土が

丹後には脈々と息づいていることがうかがえます。





たんご れきし かん ① 丹後ちりめん歴史館

絹織物工場の跡地に建つ博物館で、江戸時代中期から伝承されてきた絹織物の織りから染めまで全ての工程が見学できる。絹織物をつくる機械や、古くからの文献なども多数展示。シルクを使ったさまざまな製品も販売する日本最大級のシルク製品の直売所でもある。

- 連絡先／0772-43-0469 (丹後ちりめん歴史館)
- アクセス／KTR 宮津線「野田川」駅下車 車で約10分



たんご こうじょう 丹後ちりめん工場

丹後は絹織物産地として長い歴史と伝統を有する「織と染の総合産地」。絹の産地として培ってきた技術と経験で「精練」「染色」「整理」する工場が今でも数多く残っている。

- 連絡先／0772-62-6300 (京丹後市観光協会)、0772-43-0155 (与謝野町観光協会)

かいどう ② ちりめん街道

与謝野町加悦の「ちりめん街道」は、江戸から昭和初期にかけて高級織物「丹後ちりめん」が栄えたことを伝える国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された街道。そこには、明治、大正、昭和に建てられた多くの貴重な建築物がコンパクトに集約され、今でも住宅として利用されている。

- 連絡先／0772-43-0155 (与謝野町観光協会)
- アクセス／KTR 宮津線「野田川」駅下車 バス・タクシーで15分



きゅうびどう けいとうたく ③ 旧尾藤家住宅

ちりめん街道にある旧商家。江戸末期の近畿北部の大型農家の住居を基本としながら、それに丹後の生糸ちりめん商家の要素や昭和初期の洋風建築要素が加わった、大変貴重な建造物。平成14年に京都府有形文化財に指定された。

- 連絡先／0772-43-1166 (旧尾藤家住宅)
- アクセス／KTR 宮津線「野田川」駅下車 バス・タクシーで15分



くろたにわし 黒谷和紙

平家の落武者が子孫に残す技として始めたといわれる黒谷和紙は、800年という長い時を越えて現在も伝統的な古法の技術で漉かれています。綾部市にある黒谷和紙会館と黒谷和紙工芸の里では紙漉き体験ができるほか、昔の道具の展示や加工された和紙製品の販売もされており、豊かな自然と人との共存から培われた文化を体感することができます。

- 黒谷和紙会館／JR山陰本線「綾部」駅よりあやバス黒谷線「黒谷和紙会館前」下車すぐ 0773-44-0213
- 黒谷和紙工芸の里／JR山陰本線「綾部」駅よりあやバス上林線「十倉」下車すぐ 0773-45-1056

味 バラ寿司

丹後ばらずしはハシの目を祝う丹後の伝統的なご馳走です。まつぶたと呼ばれる浅い木箱にすし飯を敷き、その上に甘辛く煮付けたサバのおぼろ、錦糸玉子、紅しょうが、かまぼこ、椎茸などを彩りよく散らします。できたすしを切り分けて食べるのが丹後独特のスタイルです。地域や家によって、バリエーション豊かに作られてきました。



丹後の歴史と未来の交差点

自然の恵みと歴史に彩られた、新たな交流と交易の拠点

リアス式海岸をはじめ変化に富んだ海岸線が続き、深い入江が多いことから、

京都の北部には天然の良港が点在し、豊かな海の幸に恵まれています。

京都舞鶴港もそのひとつで、古来、北前船の寄港地として知られ、

日本海側でも有数の商業港として栄えてきました。

明治時代には日本海側唯一の海軍鎮守府「舞鶴鎮守府」が開府し、

軍港として飛躍的に発展しました。

第二次世界大戦後には、

ソ連による抑留から解放された人々を温かく迎え入れ、

平和の大切さを伝える引揚の街としての顔も併せ持ちます。

今も舞鶴の街には、多くの旧日本海軍関連の遺跡が残り、

「赤レンガのまち」として景観の美しさでも知られています。

平成二十三年には日本海側拠点港に選定され、

国際フェリーや外航クルーズが就航するなど

今後も環日本海との交流拠点としての役割が期待されています。



しん に ほん かい 新日本海フェリー

舞鶴・敦賀・新潟・秋田と小樽・苫小牧東を結ぶフェリーを運営するフェリー会社。日本海側で初めての長距離フェリーとして1970年、舞鶴港 - 小樽港間に航路が開設されて以来、毎日就航している。

●連絡先 / 06-6345-2921 (大阪予約センター)



いねうらふなやぐん いね ふなや
② 伊根浦舟屋群 (伊根の舟屋)

伊根町の伊根浦舟屋群は国の重要伝統的建造物群保存地区。周囲 5 km の湾に沿って 230 軒あまりの舟屋が立ち並ぶ風景は壮観で、全国的にも類を見ない。その歴史は古く江戸時代中期頃から存在していた。かつては主として舟や漁具の収納庫として使用されていたが、現在では2階部分を居室として使用するところもある。

- 連絡先 / 0772-32-0277 (伊根町観光協会)
- アクセス / KTR 宮津線「天橋立」駅から丹後海陸交通バスで約 55 分「伊根」下車



たいざぎょう
① 間人漁港

京丹後市にある港で、冬場にここで水揚げされるズワイガニは、「間人ガニ」として有名。丹後ではズワイガニのオスを「松葉ガニ」と呼び、大きさや身のつまり具合、姿形、かたさといった基準で細かく選別される。

- 連絡先 / 0772-62-6300 (京丹後市観光協会)
- アクセス / KTR 宮津線「峰山」駅から丹後海陸交通バスで 40 分「間人」下車すぐ



がいこう
外航クルーズ

近畿で唯一の日本海側拠点港に選定された舞鶴港では、2012 年には浦項迎日湾港 (韓国) 間に国際定期フェリー航路運航のトライアル事業を開始。また、2013 年から米国の「プリンセス・クルーズ社」の日本各地を周遊する新規クルーズも決定。豪華な船の旅が満喫できる。

- 連絡先 / 0773-75-8600 (舞鶴観光協会)



まいづるひきあげきねんかん
③ 舞鶴引揚記念館

昭和 63 (1988) 年、引揚棧橋がある平地区を見下ろす丘に建設された。引揚に関わる一連の資料を展示する日本唯一の施設として、悲しき過去の歴史を今日の人々に静かに伝えている。岸壁の母で有名な引揚浅橋はこの近くに「世界平和の架け橋」として、現在復元されている。

- 連絡先 / 0773-68-0836 (舞鶴引揚記念館)
- アクセス / JR 舞鶴線「東舞鶴」駅から京都交通バスで約 15 分「引揚記念館前」下車すぐ



あか
④ 赤れんがパーク

明治 34 (1901) 年、舞鶴鎮守府が創設されて以降、明治・大正時代を通じて旧日本海軍によって建てられた 12 棟からなる赤れんが造りの倉庫群。保存状態が非常に良く、国の重要文化財および近代化産業遺産にも認定されている。

- 連絡先 / 0773-75-8600 (舞鶴観光協会)
- アクセス / JR 舞鶴線「東舞鶴」駅下車 徒歩 15 分



味 とり貝・岩ガキ

夏の名物「丹後とり貝」「岩ガキ」。丹後とり貝は一般的なとり貝の 3 倍ほどの大きさがあり、肉厚で甘味が強い。与謝蕪村も大好物だったと伝えられています。また、由良川などの河川から供給される栄養塩をとりいれて育つ豊かな植物性プランクトンを食べて育つ丹後の天然の岩がきは、大変大きく味も濃厚です。



ガラシヤと光秀の道

丹後から丹波へ、丹波から京都へ、
歴史が織りなす人の縁

丹波にゆかりの深い

歴史上の人物のひとり、明智光秀。

日本史上最大の謎に満ちた事件

「本能寺の変」の主謀者として知られ、

織田信長を討った逆賊、

謀反人として認識されてきました。

ところが、近年になって「実際には、領民を慈しんだ知将であり、

教養人、博識、愛妻家、文武両道の隠れた英雄であった」と、

従来のイメージと異なる面が徐々にクローズアップされてきました。

明智光秀

光秀の娘・玉（後の細川ガラシヤ）は、十六歳のとき、

織田信長の命で、細川幽斎の息子・忠興のもとに嫁いだ後、丹後へ赴きます。

女性が政略の道具として使われた時代に、真の人間らしい生き方を貫き、

実の親子も殺し合う戦国の世にあって、強い信念と愛と信仰に殉じた姿は、

今、多くの女性たちの注目を集めています。

ガラシヤと光秀にまつわる、丹後〜丹波〜京の都を結ぶ「ガラシヤ・光秀の道」。

歴史のページを彩る足跡が、今もそこかしこに息づいています。

③ 山崎合戦記念碑

天正 10 (1582) 年、羽柴秀吉軍と明智光秀軍との間で天下分け目の山崎合戦が起こった際、秀吉が味方の士気を高めるため、樹上高く千成ひょうたんの旗印を掲げた「旗立松」(6代目) 横に立つ記念碑。
●連絡先 / 075-956-2101 (大山崎町経済環境課)
●アクセス / JR 京都線 (東海道本線)「山崎」駅 阪急京都線「大山崎」駅下車 徒歩 30分



① 亀山城址

天正 5 (1577) 年頃、明智光秀が丹波攻略のために築城した城。本能寺の変の際には、光秀がこの城から出発したといわれている。現在は宗教法人「大本」の敷地内にあり、扇形の石垣と内堀の一部が残る。
●連絡先 / 0771-22-5561 (大本本部)
●アクセス / JR 嵯峨野線 (山陰本線)「亀岡」駅下車 徒歩 10分

② ガラシヤ隠棲地の碑

京丹後市弥栄町味土野にある碑。本能寺の変後、豊臣秀吉に味方した夫の細川忠興がガラシヤに累が及ぶことを危惧し幽閉した地の跡に立つ。
●連絡先 / 0772-62-6300 (京丹後市観光協会)
●アクセス / KTR 宮津線「峰山」駅下車 車で約 40分



5 福知山城

明智光秀が丹波地方を平定した際に拠点として築いた城。近隣の寺院から集めた大量の石塔類を石垣に使っている。天主台は天正期のものがそのまま残されている貴重なものである。昭和61年に建物が復元され、現在は公園として市民の憩いの場になっている。

- 連絡先 / 0773-23-9564 (福知山城郷土資料館)
- アクセス / JR 山陰本線「福知山」駅・KTR 宮福線「福知山」駅下車 徒歩15分



4 勝竜寺城公園

明智光秀の娘・細川ガラシャゆかりの城跡。ガラシャが夫である細川忠興と新婚時代を過ごしたといわれている。山崎合戦時には敗れた光秀の退却先にもなった。平成4年に公園として整備され毎年秋に「細川ガラシャ祭」が行われている。

- 連絡先 / 075-951-4500 (長岡京市観光案内所)
- アクセス / JR 京都線 (東海道本線)「長岡京」駅下車 徒歩約10分

6 山家城址公園

本能寺の変の後に谷衛友が築城し、谷藩政の中心地。関ヶ原の戦いにおいて、衛友は西軍に属し細川幽斎の田辺城の包囲に加わるが、歌道の師匠であった幽斎の取りなしで戦後も徳川家康から所領を安堵された。現在は、城址公園内にある門の2階が「山家資料館」となっており、谷氏の甲冑や古文書など様々な資料が展示されている。(資料館の見学は予約が必要)

- 連絡先 / 0773-46-0345 (山家郷土歴史資料館委員会事務局)
- アクセス / JR 山陰本線「綾部」駅からあやバス上林線「山家バス停」下車 北へ徒歩15分



7 谷性寺

亀岡市にある光秀の首塚が祭られている寺。光秀は生前、この寺の本尊に厚く帰依していたと伝わる。境内には光秀の善政をしのいで地元の人々が植えた桔梗が咲き乱れ、「桔梗寺」とも呼ばれる。

- 連絡先 / 0771-26-2054
- アクセス / JR 嵯峨野線 (山陰本線)「亀岡」駅から京阪京都交通バスで約25分「猪倉」下車 徒歩5分



8 舞鶴公園 (田辺城跡)

舞鶴市の中心部にある城。細川幽斎・忠興親子が築き、丹波地方の拠点の一つとした。関ヶ原の戦いでは幽斎が西軍を相手に籠城戦を戦ったことで知られている。また、「舞鶴」の地名は、田辺城の雅称「舞鶴城(ぶかくじょう)」に由来する。

- 連絡先 / 0773-76-7211 (田辺城資料館)
- アクセス / JR 舞鶴線「西舞鶴」駅・KTR 宮津線「西舞鶴」駅下車 徒歩5分 舞鶴若狭自動車道「舞鶴IC」から10分



味 松茸

香りの良さと弾力に富んだ菌ごたえで、広く知られる丹波マツタケ。収穫時期は9月下旬から10月下旬。山で採りたてを丸ごと、落ち葉で蒸し焼きにしたものが最高の味とされます。





丹後と山城を結ぶあしぎぬの道

海の京都と平安京・平城京を結ぶ道。
歴史のロマンとミステリーに彩られた山城の道

奈良・正倉院に納められている宝物のひとつに、赤い「あしぎぬ絶」があります。絶とは、古代日本に存在した絹織物の一種で、たいへんに貴重だったことから、納税や給与、賜物などに用いられました。古い記録により、丹後から奈良の平城京に絶や赤米、米などが税として納められたことが分かっており、丹後から丹波、山城を通り、遠く平城京へつながる古道があったと推測されています。山城には、奈良の平城京の時代に一時的に「恭仁京」が、そして、平城京から平安京に遷る間に「長岡京」が置かれました。恭仁京・長岡京には、今も大極殿跡や遺跡が残っています。山城には、奈良の著名な寺院の末寺も多く存在し、平城京から多くの僧が修行の場としてこの地を訪れたことがうかがえます。



② 恭仁京の大極殿跡

藤原広嗣の乱の後、天平 12 (740) 年、聖武天皇の勅命によりわずか 4 年の間、都が置かれた。現在の木津川市瓶原地区にあり、大極殿跡が残っている。晩夏から秋にかけて、蕎麦の花、彼岸花、コスモスが咲き誇る。
●連絡先／0774-73-8191 (木津川市観光協会)
●アクセス／JR 大和路線 (関西本線)「加茂」駅下車 西口より徒歩 30 分。または、木津川市コミュニティバスで 7 分「恭仁宮跡」下車 (土日祝は運休)



① 長岡京の大極殿跡

延暦 3 (784) 年から延暦 13 (794) 年まで現在の向日市、長岡京市、京都市の一部にわたる地域にあった都。向日市鶏冠井町に「大極殿」の地名が残り、昭和 30 年代にその場所を発掘したところ、建物跡を発見、国の史跡に指定された。現在は桜が美しい公園となっている。
●連絡先／075-931-1111 (向日市観光協会)
●アクセス／阪急京都線「西向日」駅下車 徒歩 5 分



じょうりょ
③ 浄瑠璃寺

木津川市にある真言律宗の寺。平安時代に建てられた本堂、三重塔、阿弥陀如来像・木造四天王立像などが国宝に指定され、境内の庭園は特別名勝・史跡となっている。

- 連絡先 / 0774-76-2390
- アクセス / JR 大和路線「奈良」駅西口・近鉄奈良線「奈良」駅から奈良交通バスで約 30 分「浄瑠璃寺前」下車すぐ、JR 関西本線「加茂」駅東口から木津川コミュニティバスで約 20 分「浄瑠璃寺」下車



かいじょうせんじ
④ 海住山寺

木津川市にある真言宗の古刹。歴史は古く、寺伝では天平 7 (735) 年、恭仁京造営の 6 年前、聖武天皇が大仏造営の無事を願って建てさせたといわれている。鎌倉時代に建立された五重塔が国宝に指定されている。

- 連絡先 / 0774-76-2256
- アクセス / JR 関西本線「加茂」駅西口から奈良交通バスで約 5 分「岡崎」下車 徒歩約 40 分、木津川コミュニティバスで約 10 分「海住山寺口」下車 徒歩約 20 分 (土日祝は運休)、JR 関西本線「加茂」駅下車 車で約 15 分

がんせんじ
⑤ 岩船寺

木津川市にある真言律宗の寺院。8 世紀、聖武天皇の発願により行基によって建立されたと伝えられている。室町時代に建てられた三重塔は重要文化財に指定され、アジサイ寺としても知られる。

- 連絡先 / 0774-76-3390
- アクセス / JR 大和路線「奈良」駅西口・近鉄奈良線「奈良」駅から奈良交通バスで約 25 分「岩船寺口」下車 徒歩 15 分、JR 関西本線「加茂」駅東口から木津川市コミュニティバスで 16 分「岩船寺」下車

味 宇治茶

全国に知られる茶の産地・山城。宇治川や和東川、木津川などから立ち上る霧と寒暖の差が激しい風土が茶の栽培に適し、柔らかく、旨味成分を多く含む上質の茶葉は時の為政者から珍重されました。鎌倉時代から生産され、室町時代には三代将軍足利義満が宇治に将軍家や管領家専属の 7 つの茶園を拓き、江戸時代には新茶を将軍に献上するための「茶壺道中」も行われました。また、独特の「宇治製法」を開発、1800 年代に煎茶、玉露が生み出されました。



茶畑の景観

北前船が運んだ
文化と食の源
P.6~7

日本海

丹後

今も残る丹後古代の風景
P.4~5

海から始まる京への道マップ



西陣から
丹後ありめんへの道
P.8~9

丹後の歴史と未来の交差点
P.10~11

丹波
ガラシャと光秀の道
P.12~13

山城
丹後と山城を結ぶ
あしぎぬの道
P.14~15

高速バスの場合

大阪	約3時間	天橋立
京都	約2時間20分	天橋立
京都	約3時間	京丹後市内
阪急京都線	約2時間30分	京丹後市内

高速長岡京 (阪急西山天王山駅)

車の場合 ○内の数字は移動時間のおよその目安(分)を示しています。

大阪方面から 天橋立まで約2時間20分	大阪	30	吉川JCT	45	福知山IC	15	綾部JCT	20	宮津天橋立IC	5	与謝天橋立IC	30	京丹後市
京都方面から 天橋立まで約2時間10分	京都	15	長岡京IC	5	塔掛IC	25	丹波IC	20	京丹波わちIC	10	綾部JCT	20	宮津市
名古屋方面から 天橋立まで約3時間	名古屋	90	敦賀IC	60	小浜IC	30	舞鶴東IC	10	舞鶴西IC	10	綾部JCT	20	宮津市

鉄道の場合

大阪	90	福知山	24	宮津	5	天橋立	20	峰山
京都	65	綾部	10	天橋立	5	天橋立	20	峰山
京都	65	綾部	10	西舞鶴	6	東舞鶴	6	峰山